

技術理論I 過去問題 解答

序章 美容技術理論を学ぶにあたって

問題1	②	①フロントポイント③トップポイント④イヤーパーポイント
問題2	③	
問題3	②	
問題4	④	
問題5	①	②トップポイント③バックポイント④ネープポイント
問題6	②	フロントライン・・・・・・額の生え際
問題7	④	
問題8	③	①フロントポイント②トップポイント④イヤーパーポイント
問題9	①	②トップポイント③フェイスラインとは④フロントライン
問題10	①	
問題11	③	①上眼瞼は、眼球の上に位置する。②口角は口裂の端をいう。④鼻唇溝は、ほうれい線のことである。
問題12	③	
問題13	④	肘を伸ばして作業するよりも、肘に余裕をもたせて手先を動かして作業する場合の方が効率的である。
問題14	④	①フロントポイントとは、前頭部の生え際と正中線の交わった点のこと。②ゴールデンポイントとは、トップポイントを通る水平線とバックポイントを通る垂直線が交差するところから、頭皮に直角に下ろした正中線上の点。③サイドラインとは、鬢の生え際のこと。
問題15	②	①ゴールデンポイントとは、トップポイントを通る水平線とバックポイントを通る垂直線が交差するところから、頭皮に直角に下ろした正中線上の点をいう。③フロントラインとフェイスラインを合わせてフェイスラインとよぶ。④バックポイントとは、正中線上で後頭部の一番凸の部分の点をいう。
問題16	①	ルヌーラは爪半月
問題17	②	
問題18	③	「目」の高さではなく「心臓」の高さ
問題19	①	②鼻唇溝は、鼻翼から口角につながる溝。③人中は、鼻尖と上唇の間に位置する。④眉間は左右の眉毛の間に位置する。
問題20	②	

第1章 美容用具

問題1	③	替刃式レザーの刃線は、直線状である。
問題2	④	
問題3	①	②胴 ③歯元 ④歯
問題4	④	①動刃と静刃の間が、凸レンズ状のあきがあるものがよい。②小指掛のある方は静刃③アールシザーズはフロント、サイド、ネープなどの細かい部分の修整や毛先のつながりをつけるのに効果的
問題5	④	b 替刃のレザーは横すべりせず安全性が高い。本レザーが切りすぎる危険がある c 本レザーの刃は直線状または外曲線状につくられている
問題6	③	テンションを効かすブローの際は目の細かいブラシを用いる
問題7	②	①歯元 ③胴 ④歯先
問題8	①	歯元にはコームの目にはいった毛髪を一線にそろえるはたらきをする。
問題9	③	本レザーの刃は、直線状か外曲線状で替刃のレザーは直線状である
問題10	②	
問題11	③	ブロータイプが音が静かで毛髪も乱れにくい。タービナータイプの特徴は熱風の放散を防ぐのに効果があり、ドライイングの能率を高める。
問題12	②	
問題13	②	母指で操作する刃は動刃
問題14	②	
問題15	④	小指掛のある方は、静刃である。
問題16	②	①やわらかい毛のブラシは、洗剤に浸し、指先で軽くもんで汚れを落とす。③毛を下に向けて乾かす。④ブラシはコームよりも汚れが付きやすいため、コーム以上に入念な手入れが必要。
問題17	③	①歯元は、コームの目に入った毛髪を一線にそろえるはたらきをする。②歯は、毛髪を引き起こし垂直に立てて両側から支え、そろえるはたらきをする。④胴は、コーム全体の支えとなり、バランスをとるはたらきをする。
問題18	③	①化払いブラシは、獣毛やナイロン製のやわらかくて毛の長いものがよい。②ネイルブラシは、ネイルケアを行うとき、爪の汚れなどを取り除くために用いられる。④ヘアブラッシングに用いるブラシは、毛がやわらかすぎると頭皮まで通らないので、圧程度がたたくて弾力のあるものがよい。
問題19	①	②毛を下に向けて乾かす。毛を上にして置くと、毛を植えた根元に水が浸透してブラシのもちが悪くなる。③チークブラシはやわらかい毛なので、指先で軽くもんで汚れを落とす。④ブラシは汚れが付きやすい。法規に従ってお客様一人ごとに消毒する。
問題20	③	動刃と静刃の間は、凸レンズ状のあきがあるものがよい。
問題21	①	
問題22	③	①ヒットゴム（接点）ではなく、交点 ②凹レンズ状ではなく凸レンズ状 ④ネジと触点の部分にオイルをさし、全体にのぼすようにするとよい。

問題23	③	母指で操作する刃は動刃
問題24	②	
問題25	①	コームの目に入った毛髪を一線にそろえるはたらきをするのは、歯元。
問題26	③	アタッチメントではなく、サーモスタット。
問題27	①	②ハンドドライヤーはブロータイプである。③スタンドドライヤーの消費電力は1,000W程度。ハンドドライヤーは1,200Wのものが多く。④ヘアスチーマーはスチーム（蒸気）を利用したもの。
問題28	④	動刃と静刃の間に、凸レンズ状のあきがあるものがよい。
問題29	③	
問題30	①	本レザーの刃線は、直線状か外曲線状である。
問題31	①	

第2章 シャンプーイング		
問題1	④	プレトリートメントはパーマやカラーの施術前に、毛髪を保護して損傷が拡大するのを防ぐものをいう
問題2	④	抗ふけ効果のあるフケ取りシャンプー剤は、 ジンクピリチオン が配合されている。パーマ前に行うシャンプーに使用するものは、 適度な洗浄力で刺激の少ないもの がよい
問題3	②	①ドライスキアルトリートメント③ダンドラフスキアルトリートメント④ノーマルスキアルトリートメント
問題4	③	①ドライスキアルトリートメント②ノーマルスキアルトリートメント④ダンドラフスキアルトリートメント
問題5	④	毛髪の静電気を防止するのは カチオン界面活性剤
問題6	④	シャンプー剤は一度に多量に使用しても効果はなく、毛髪を傷めてしまう恐れもある
問題7	②	①乾性の頭皮や毛髪には③フケの多い頭皮には④酸性効果のあるシャンプー剤はヘアカラー用シャンプー剤
問題8	③	生え際からつむじに向かって行う
問題9	②	①正常な頭皮に行う③皮脂分泌の多い頭皮に行う④フケ除去のために行う
問題10	②	a 湯の温度は一般に 38～40°C が適温 d 毛髪を強くこすり合わせると 毛小皮を傷める
問題11	②	
問題12	④	グリチルリチン酸アモニウムは消炎効果がある。血行促進の効果があるのは ビタミンEニコチネート
問題13	②	
問題14	①	②カップリングは手掌をカップ状にくぼませて両手を軽く握り、手の甲で頭、首、肩をリズムカルに叩く③ピーディングはこぶしで叩打する④ハッキングは開いた手掌の小指側で軽く叩打する
問題15	①	cとdはリンス剤に配合されている カチオン界面活性剤 の特徴
問題16	③	カチオンポリマーはカチオン界面活性剤よりも毛髪に長く残り、より高い効果が得られる。
問題17	①	②カラー施術後はアルカリ性に傾くので酸性に戻すリンス剤を使用する。③カチオン界面活性剤が皮膜をつくり、静電気を防止する。④ジンクピリチオンは殺菌効果があり、フケ防止剤である。
問題18	①	②カップリング ③タッピング ④ピーディングはこぶしで叩打する。
問題19	①	②ふけが多い状態の時。③皮脂が不足して、乾燥している状態の時。④正常な状態の時。
問題20	①	cファーストシャンプーは、大きめの動きでリズムカルに、あまり時間をかけない。dお湯の温度は 38～40°C 。
問題21	③	①ジンクピリチオンは抗ふけ効果がある。②アルカリ性に傾いた頭毛には弱酸性のシャンプー剤がよい。④脂性の頭皮や頭毛には洗浄効果を主としたシャンプー剤がよい。
問題22	③	
問題23	①	
問題24	①	薬剤などを使うものが、化学的方法に分類される。
問題25	①	②強擦法 ③打法（タッピング） ④圧迫法
問題26	②	オイリースキアルトリートメントは、頭皮の皮脂の分泌が過多の場合に行う。
問題27	③	①お湯の温度は 38～40°C が適温。②ブラッシングは、根元から毛先に向けて行う。④バックシャンプーはサイドシャンプーに比べてネーブが洗いやすく、両手でしっかり洗える。
問題28	③	①②④は、物理的な方法である。
問題29	④	①ニーディング ②フィンガースルー ③フィンガースルー
問題30	②	①カップリング ③ピーディング ④タッピング
問題31	③	サイドシャンプーに比べてネーブが洗いやすい。
問題32	②	①ブラッシングは生え際からゴールデンポイントに向かってとかす。③弱酸性のシャンプー剤が適している。④ファーストシャンプーは予洗いであり、セカンドシャンプーが本洗いとなる。
問題33	③	③は洗浄効果を主としたシャンプー剤の記述
問題34	①	②③④は物理的な方法
問題35	①	②振動法は、指先だけでなく腕全体で、皮膚や下部組織に振動を伝える手技。③ハッキングは、両手の指間を開け、手掌の外側面で軽く交互に叩打する手技。④タッピングは、指の掌面を用いて頭をはじくように叩打する手技。
問題36	①	②セカンドシャンプーは、手の動きをやや細かくし、マッサージ効果を意識して行う。ファーストシャンプーが余り時間をかけない。③パーマ、カラー前は頭皮をこすらないよう、やわらかいタッチで行う。④カラー後のシャンプーは、薬剤を丁寧に取り除き、汚れも洗い流す。

問題37	①	カチオン界面活性剤は、毛髪の上に吸着し、皮膜をつくるので、静電気を防止してブラシの通りをよくするほか、ほこりなどを遮断し、キューティクルを保護する。
問題38	②	石けんを主剤としたシャンプー剤の使用後は、石けんかすを取り除き、アルカリ性に傾いた毛髪のpHをもとに戻すために、酸性リンスが適している。
問題39	②	①適温は38～40度である。③パーマやカラー前のシャンプーでは、頭皮を傷つけないように洗う。傷つけてしまうとカブレの原因になる。④一度に多量のシャンプー剤を使用してもさほどの効果はなく、むしろすすぎ残しが出来るおそれがあるので、適量のシャンプー剤を使用すること。
問題40	④	

第3章 ヘアデザイン

問題1	①	幾何学的錯視
問題2	①	
問題3	④	
問題4	④	
問題5	②	ドンディスによる形の基本形は、円・正方形・正三角形である。

第4章 カット

問題1	④	
問題2	②	①ショートストロークカット③ポイントカット④スライドカット（現在は・毛先を穂先のような状態にして、長さの調節と毛量調節を同時に行い、毛先に表情をあたえるカット技法と変更されている）
問題3	④	
問題4	②	①ディープテーパークット③エンドテーパークット④レフトサイドテーパークットはパネルの左側をテーパーする
問題5	①	
問題6	①	
問題7	③	①アウトサイドテーパークット②インサイドテーパークット④テーパーなし
問題8	③	①セームレングスカット②ツイストセニングカット④プラントカット
問題9	④	上部が短く下部が長くなるカットはレイヤーカット
問題10	②	①ディープテーパークットは根元近くから③ボスサイドテーパークットはパネルの内側外側の両面をテーパーする④インサイドテーパークットは、パネルの内側をテーパーする
問題11	②	①はプラントカット③はトリミングカット④クリッピングカット（現教科書には記載なし）
問題12	②	
問題13	①	cはトリミングカット dはスライジングカット（スライジングカットは旧教科書の技法なので覚えなくて良い。）
問題14	②	①ノーマルテーパークット ③アウトサイドテーパークット ④ディープテーパークット
問題15	③	①②はテーパーをする幅による ④はテーパーし始める方向による
問題16	③	①頭の丸みとは逆のカットラインになる。②右に向かって徐々に長いカットラインになる。④パネルの長さが短い方が、カットラインの長さの誤差が大きくなる
問題18	①	
問題19	③	①ワンレングスカット ②セームレングスカット ④セームレングスカット
問題20	④	左肘を上げる
問題21	②	
問題22	④	ディープテーパークットは、根元近くからテーパーする。
問題23	①	
問題24	①	②グラデーションカットは、ダウンステムでパネルをシェーブするため、最も長い毛髪の部分がボリュームの頂点になる。③レイヤーカットは、アップステムでパネルをシェーブするため、シルエットはトップショートロングのロングエンドになる。④セームレングスカットは、オンベースでパネルをシェーブするため、シルエットは骨格に沿った、ほぼ均等なものになる。
問題26	③	
問題27	④	①イヤーツーイヤースタイル ②側水平線 ③作業中に視線の高さを調節する場合は、背筋を曲げずに、膝の屈伸で対応する。
問題28	④	bカットラインが水平になるのはワンレングスカットである。cセームレングスカットの記述
問題29	④	セームレングスカットは、ショートスタイルのカットに多くもちいられる。
問題30	①	②レイヤーカット ③グラデーションカット ④レイヤーカット
問題31	③	横パネルには直角にシザーズを入れないようにする。
問題32	①	
問題33	③	
問題34	②	①左サイドの前上がりラインを切る場合は、左肘を上げる。③視線の高さを調節する場合は、背筋を曲げずに、膝の屈伸で対応する。④切る対象にに対して、腕を軽くまげたくらいの間隔をおき、ほぼ肩幅のスタンスで立つ。
問題35	③	①炭素鋼には炭素が2%以下含まれている。②ステンレス鋼にはクロムが約12～18%含まれている。④炭素鋼はステンレス鋼に比べてさびに弱い。
問題36	③	

問題37	④	レーザーによるポイントカットは、毛先を不揃いに尖らせ、ヘアスタイルにちょっとした遊びや変化をもたせるカット技法である。パネルの内側をテーパする技法の名称は、インサイドテーパークットという。
問題38	②	①の文章は、セームリングスカット ③の文章は、セームリングスカット ④の文章は、ワンリングスカット
問題39	①	セニングカットは、パネルにセニングシザーズを入れ、間引きするように毛量を減らして調整するカット技法である。
問題40	④	

第5章 パーマネントウェーピング		
問題1	①	ストランドの中心は 135度
問題2	④	濃度やアルカリ剤の量を 低レベル に設定してある
問題3	①	パーマ前のシャンプー剤は 適度な洗浄力で刺激の少ないもの が適している
問題4	①	②還元作用が弱いシステイン③チオグリコール酸は1剤の主剤④高濃度
問題5	④	12mm×3.14 (円周率) ×3 (フルウェーブを作るには3回転必要) =113.04mm=11.3cm
問題6	③	①コールド式の製品は 加温してはいけない ②関係がある④他の商品と 混合してはいけない
問題7	②	
問題8	④	①薬液も吸収しやすい②ウェーブ幅はロッドの太さで決定する③つけ巻きは、第1剤をつけてワインディングすること。文章はプレトリートメントを指す
問題9	②	シスチン結合は還元剤であるチオグリコール酸で切断される
問題10	④	
問題11	③	③ベース内に収めるオンベースにする為には、ステムの角度は135度にする。
問題12	①	②シスチン結合を切断するのは 1液チオグリコール酸 ③は2液の主成分④1液の還元剤にシステインが用いられるものがある
問題13	③	
問題14	①	②毛髪診断はシャンプーの前後③撥水性毛は薬液をはじき、パーマはかかりにくい④テンションの強弱によってかかりが変わる
問題15	④	①毛髪診断は、ドライとウェットの状態で行う。②適度な洗浄力のある刺激の少ないシャンプー剤を使う。③撥水性毛は薬液をはじき、パーマがかかりにくい。
問題16	②	a・断毛、枝毛の原因になる恐れがある為、パネルに貼り付けない。 d根元には塗布しない。
問題17	①	①の文章は2浴式パーマネントウェーブの2剤によって行われる。
問題18	④	チオグリコール酸は還元剤である。
問題19	②	毛髪の膨潤と薬液の浸透を促す働きをするのはアルカリ剤。
問題20	③	①シャンプーの前後で毛髪診断する ②吸水性毛は、薬液も吸収するのでかかりやすくなる。 ④かかりすぎるおそれのある毛髪には、トリートメントを塗布
問題21	④	①2.5倍のカール径 ②中間リンスは1剤を洗い流し、2剤のを効果的にする ③最もボリュームのできるように巻くには、ステムの角度を135度にする(オンベース)
問題22	③	①テストカールは、第1剤の作用を調べる。 ②ウェーブの大小は、ロッドの太さによって決定される。 ④水巻き、つけ巻き、トリートメント巻きに関係なく、テストカールは必ず行う。
問題23	③	①根元の方がかかりにくい。②かかりにくい毛髪にはつけ巻き、かかりすぎるおそれのある毛髪には、トリートメント巻きを行う。④広くなりやすい。
問題24	②	
問題25	②	テストカールという。ウェーブチェックとパーマネントウェーブ施術後に、全体のかかり具合をチェックすることである。
問題26	③	a・体質や現在の体調を聞くことも、技術を決めたり事故を未然に防ぐためにも重要である。 b・前にかけたパーマネントウェーブの残存部分が良く分かるのは、シャンプー後のぬれている状態である。
問題27	③	パーマの残存状態は毛髪が濡れている状態がよく分かる。
問題28	③	
問題29	④	吸水性毛は薬液も吸収しやすい。
問題30	③	①リーゼントスタイル ②リバーススタイル ④ダウンスタイル
問題31	④	①根元は毛先に比べてパーマがかかりにくい。②つけ巻き ③かかりすぎる毛髪にはトリートメント巻きが適している。
問題32	③	①テストカールは、第1剤がどの程度作用しているかチェックすること。②テストカールはロッドを数本外してチェックする(太めと細め、早く巻いた箇所と後から巻いた箇所、かかりにくそうな箇所とかかりやすそうな箇所)
問題33	①	
問題34	④	
問題35	①	②ウェーブの大小は、ロッドの太さによって決まる。③毛先はパーマがかかりやすい。④かかりにくい部分は、つけ巻きをするとよい。
問題36	④	①中間リンスは、役割を終えた1剤を洗い流すために行う。②ロッドアウト後のプレーンリンスは、2剤が残らないように十分に行う。③アフターリンスは、アルカリ分を中和し、膨潤した毛髪を収れんさせる。

第6章 ヘアセッティング		
問題1	③	ハーフウェーブの 2/3 がループの直径 $3 \times 2/3 = 2$

問題2	②	①オープン打ちクローズ打ちどちらでもよい③ループの下側を両面打ち④ループの片面を留める
問題3	②	
問題4	③	スキップウェーブとはピンカールとフィンガーウェーブが交互に配置されたもの
問題5	③	①最初の過程は毛髪全体を生乾きにする②目の粗いブラシを用いる④パネルの内角は120°Cにする
問題6	②	a 右巻きはクロックワイズwindカール d フォアードカール
問題7	②	スタンドアップカールはリフトカール、スタンドアップカール、パレルカールの3つ
問題8	③	
問題9	②	スキップウェーブとはピンカールとフィンガーウェーブが交互に配置されたもの
問題10	①	バックコーミングとは、逆毛のことで毛先から根元に向かってとかす
問題11	②	スタンドアップカールはリフトカール、スタンドアップカール、パレルカールの3つ
問題12	①	②片面打ち③水平打ち④クロスピンニング
問題13	②	
問題14	④	カウンター・クロックワイズwindカールは時計と逆周りのカール
問題15	②	
問題16	④	①～③はオープン打ち
問題17	④	毛先から根元に向かって毛髪をとかす（逆毛を立てる）
問題19	①	ブラッシングやコーミングは毛先の方から徐々に根元の方へとていねいに行う
問題20	④	①平均したウェーブを出す②ステムが長く方向が決めやすい③コムアウトした際、割れ目が出来ない。額の生え際などに用いられる。
問題21	③	①リフトカールのステムは45度以上 ②中間部に強い弾力が得られる ④毛先が狭く、根元が広がる
問題22	③	a小さいストロークで行う。 b毛先から根元に向かって毛髪をとかす。
問題23	②	a耳介に沿っているカールをフォワードカールという。d90度にシェーブしてローラーを巻くと1/2オフベースにおさまる。
問題24	③	①メイポールカール②スカルプチュアカール④リフトカール
問題25	②	A・・・ベース C・・・エンドオブカール D・・・ループ
問題26	③	
問題27	④	
問題28	④	カールステムは、ベースからピボットポイントまでをいう
問題29	④	フォアードカールは耳介に反って巻かれたカール。クロックワイズwindカールは、時計の進む方向に巻かれたカール。
問題30	④	①オプロングベース（長方形ベース）はステムが長く、方向が決めやすい。②スクエアベース（正方形ベース）は、平均したカールやウェーブを出すときに適している。③パラレログラムベース（平行四辺形ベース）は、ステムをオーバーラップさせやすいため、仕上がりが割れにくい。
問題31	②	①スキップウェーブの初めはどちらでもよい。③ターンステムが、1つのムーブメントを、巻く向きが同じ2つ（2段）以上のピンカールで構成されている。④スキップウェーブとは、フィンガーウェーブとスカルプチュアカールが交互に配置されたものをいう。
問題32	③	クロッキノールカールは、毛先巻き方式のカールである。
問題33	①	頭部左側で、リバースカールは、カウンター・クロックワイズwindカールである。
問題34	②	①ベースをスライスしてつくるストランドカールである。③スライス線より下にならない位置におさめる。④スタンドアップカールの分類
問題35	①	②根元に弾力があり、毛先が弱いカールなので、根元巻き方式であるメイポールカールの図である。③毛先が強い弾力があり、根元が大きなウェーブなので、毛先巻き方式であるクロッキノールカールの図である。④根元が立ち上がっているため、リフトカールの図である。
問題36	③	同じ方向のステムでも、角度が変わればピボットポイントは三次元的に変化する。
問題37	③	
問題38	③	①ステムの角度は仕上がり時のボリュームに関係する。②ステムの方向と角度を1つに結び付けるところをピボットポイントという。④カールステムとはベースからピボットポイントまでをいう。
問題39	②	
問題40	②	
問題41	①	
問題42	④	Aピンカールの大きさはCのウェーブ幅に対して2/3、Bカールスペースはウェーブ幅の1/3となる。
問題43	③	
問題44	④	ステムの方向は、毛髪の流れを左右する。
問題45	②	①スカルプチュアカールは中巻き方式。③メイポールカールはストランドカール（ベースを形取って巻くカール）④クロッキノールカールは、毛先巻き方式。
問題46	③	

第7章 ヘアカラーリング

問題1	①	パーマネントヘアカラーと呼ばれる
問題2	①	②一時染毛料③永久染毛剤④脱色剤
問題3	①	眉毛、まつ毛には使用してはいけない

問題4	④	①必ず 毎回 パッチテストを行う②1週間以上間隔をあける③眉毛に使用してはいけない
問題5	②	赤味 が出やすい。黄味が出やすいのは細く、軟らかく、吸水性毛。
問題6	④	酸化染毛剤は毎回必ずパッチテストが必要
問題7	④	
問題8	④	ヘアカラーの放置時間は 20～40分 、ブリーチの放置時間は 5～20分
問題9	①	②一時染毛料③永久染毛剤④永久染毛剤
問題10	③	48時間
問題11	④	
問題12	③	シャンプーしても色落ちしにくい、黒色の毛髪を明るく染毛できるのは 永久染毛剤 である。
問題13	④	こめかみ、頭頂部は染まりやすく、フロントは染まりにくい
問題14	②	カラスティックは一時染毛料、ヘアブリーチは脱色剤、カラーリンスは半永久染毛料
問題15	③	
問題16	①	②染まりやすい毛先は少なく塗布 ③ブロッキングは小さく、脱色しにくいネープから塗布 ④ブリーチ剤には酸化染料は含まれない。1剤がアルカリ剤、2剤が過酸化水素水
問題17	③	①永久染毛剤②一時着色料④脱染剤
問題18	④	①塗布量も変える。②使用する第1剤と第2剤を混ぜたものを塗布する。③眉毛、まつ毛には使用してはいけない。
問題19	④	①根元は染まりやすく、毛先染はまりにくい（バージン毛の場合）。②ネープラインから塗布する。③第1剤の主成分がアルカリ剤で、第2剤の主成分が酸化剤。
問題20	②	①黄褐色と赤褐色の2種類 ③メラニン含有量が多いと暗くなる ④4前後
問題21	①	②染まりにくい毛髪は、塗布の順序や塗布量で調節する ③もみ上げ、フロントは染まりにくい ④バージン毛は毛先が染まりにくく、根元が染まりやすい
問題22	②	②の文章はパーマの際の毛髪診断で行うものである。
問題23	③	①色味を感じないくらいグレーになる。②お互いの色を打ち消してくすみ、ニュートラルな茶色になる。④サイドが高いといえば、鮮やかな色（強い色）をいい、彩度が低いといえば、くすんだ色（弱い色）をさす。
問題24	④	
問題25	③	①硬く太い毛質は、色が明るくでにくい。②軟らかく細い毛質は、黄み系が出やすい。④はっ水性のある毛質は明るく出にくいので、希望色より明度の高い染毛剤を選択し、吸水性のある毛質は明るく出やすいので、希望色より明度の低い染毛剤を選択する。
問題26	④	b・色は2～3ヶ月間持続する。 c・人によってカブレが出ることがある。染めた後、手入れが十分でない場合、毛髪を傷めるおそれがある。
問題27	②	
問題28	②	
問題29	④	①酸性染毛料は汗で色落ちする。②酸性染毛料は黒色の毛髪を明るい色にはできない。③植物性染毛料
問題30	③	塗布はスピーディに行く。
問題31	②	①毛髪に損傷のある部分には、希望色より明度の低い染毛剤を多めに塗布する。③もみ上げ、フロントは染まりにくい。④バージンヘアの毛先は染まりにくい。
問題32	①	②白髪は染まりにくいので、白髪の多い箇所から塗布する。③放置時間の目安は、ヘアカラーの場合20分～40分、ヘアブリーチの場合5分～20分で5分おきにテストする。④放置時間がある程度経過した時点で、皮膚や発色の状態を確認するためカラーチェックを行う。
問題33	①②	①脱色剤、脱染剤は、活性酸素がメラニン色素を脱色して毛髪を明るくする作用がある。③ヘアマニキュアは半永久染毛料に分類される。④一時染毛料は一度のシャンプーで色が落ちる。半永久染毛料の色持ちは2～4週間。
問題34	②	①パッチテストは使用のつど毎回行う。③テスト液は、腕の内側（皮膚の柔らかい部分）に塗る。④テスト部位の観察は、塗布後30分くらいと48時間の2回は必ず行う。
問題35	④	
問題36	④	セコンダリーカラーという。